

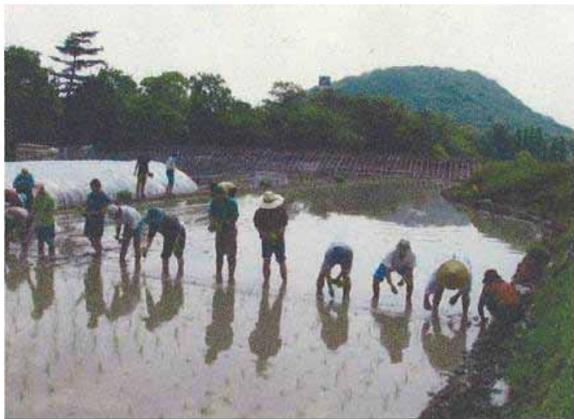
里地里山保全・再生の特征的取組 個票 A (対象地域の概況)

NO.107	甲山(かぶとやま)グリーンエリア		生物地理区分		アカマツ林	
			地域区分		大都市近郊	
所在地	都道府県	兵庫県	地形条件	1.山地	2.山麓部	3.丘陵・台地
				4.低地	5.その他	
	市町村	西宮市	環境要素	1.二次林	2.草地	3.水田
				4.畑	5.小川・水路	6.ため池
集落名称等	甲山(かぶとやま)~社家郷山	7.池沼・湿地		8.社寺林	9.人工林	
		10.その他				

環境要素(対象とする地域に含まれる環境要素)

:面積割合が最大のもの :それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
保安林 西宮市指定生物保護地区 西宮市指定自然保護地区	
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状



撮影時期：2008年5月

写真の説明：鷲林寺地区農地での田植え風景(水は仁川より取水)。東に見える甲山。



撮影時期：2008年7月

写真の説明：西宮市指定文化財、生物保護地区(甲山湿原)。周辺の森林部の成長により富栄養化、乾燥化が進み、面積が縮小している。

NO.107		甲山(かぶとやま)グリーンエリア		取組主体	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	兵庫県			2.団体・企業・学校等
	市町村	西宮市			3.行政による支援施策の活用
	集落名称等	甲山(かぶとやま)～社家郷山			4.多様な主体が参加・連携する組織体
					5.その他

取組主体	主な主体の名称	特定非営利活動法人こども環境活動支援協会	
	その他の主体の名称	甲山周辺自然環境保全連絡協議会ほか	
目的 :主 :その他	<b>1.農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化(伝統的なものも含む)</b>		
	対象・取組内容	都市近郊の農地は後継者不足のため用地転用などにより減少している。こども環境活動支援協会では、平成18年より地元農家の協力を得て、農体験を通じた食育活動・自然学習といった学びの場として活用しながら農地を維持していく取組を行っている。平成20年度からは地元企業や食品業界の企業と連携し、企業の社会貢献活動の一環として、スポンサー事業として年間を通じた農業塾やファミリー向けの食育イベントなどを行っている。(約1000坪)また、近隣里山林の落ち葉を堆肥化し、農地で苗作りに活用するなどの取組を進めている。	
	支援措置		
	<b>3.環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用</b>		
	自然観察会	*	甲山エコひろば 日帰りガイドウォークプログラム
	環境教育・学習活動	*	市内小学校などでの環境学習、川の生き物観察など
	里地里山体験・環境保全	*	森林湿原サポーターセミナー 市民参加型保全活動
	農林業体験活動	*	家族農業塾 農業基礎塾 こども農業塾(キャンプ)
	エコツアー	*	甲山エコツアー 自然・歴史・農などをテーマに一泊二日
	その他	*	モニタリングサイト 1000里地調査一般サイト
<b>4.野生動植物やその生息地の保全・管理</b>			
取組内容	西宮市の天然記念物に指定されている甲山湿原は周辺の森林部の成長に伴い、乾燥化・富栄養化が進んでいる。こうしたことから行政・有識者・造園業者などで構成する検討委員会にて保全ガイドラインを作成し、それに基づき定期的に集水域部分の常緑樹の間伐や冬季の大規模除草や落ち葉除去を市民ボランティアで行っている。		
連携・協働による取組内容・役割分担等	対象地においてNPOが実施する各種事業については、甲山周辺自然環境保全連絡協議会、甲山湿原保全ガイドライン作成検討委員会(19年度終了)都市近郊における農地の役割に関する国際シンポジウム、「コープの森・社家郷山」森林保全活動推進委員会など、行政・専門家・事業者・NPOなどの連携・協働を基本としている。		
取組の特徴や強調したい点	都市近郊地の緑地帯であるため、広く市民が身近な里地里山での自然体験や保全活動に参加することができる。また、西宮市は環境学習都市宣言をし、環境学習をまちづくりの重点施策の柱として考えており、広く市民・事業者などが環境学習に関われるように基盤を整えている。		

取組の概要	行政、専門家、企業、NPOが連携・協働して都市近郊農地森林保全	課題グループ  学習体験 仕組
事例の特性	内・外のニーズをマッチさせるための協議会と計画等(大都市近郊)	
取組の中で他の地域の参考となる点	都市近郊に残された里地里山を、行政、専門家、企業、NPOが連携し、地元農家の協力も得て保全活用。自然環境保全連絡協議会のもとで、湿地保全ガイドラインに基づく森林整備、食育の場としての農地の活用などが行われている。	